

第7回全国高等学校情報教育研究会全国大会 (埼玉大会) 参加報告

富山県立富山北部高等学校  
臨任講師(情報科担当) 松井 雅基

(1) 大会テーマ

「輝く未来を創る情報教育～新しいメディアへのアプローチ～」

(2) 日時 平成26年8月12日(火) 午後1時から8月13日(水) 午後3時30分  
まで

(3) 会場 東洋大学川越キャンパス〒350-8585埼玉県川越市鯨井2100

TEL:049-239-1300 (代表) [http://www.toyo.ac.jp/access/kawagoe\\_j.html](http://www.toyo.ac.jp/access/kawagoe_j.html)

(4) プログラム

○8月12日(火)

11:30～ 受付(7号館2階) 12:30～総会(7号館2階講義室721)

全国高等学校情報教育研究会総会

13:00～ 開会行事(7号館2階講義室721) 開会挨拶、来賓祝辞等

13:15～ 基調講演(7号館2階講義室721)

講演者：前刀 慎明氏(株式会社リアルディア代表取締役社長 元  
アツグル米國本社副社長兼日本法人代表取締役)

演題：輝く自分を創るセルフ・イノベーション

15:00～ ライトニングトーク(7号館2階講義室721)

20人による1件3分ずつの分科会の紹介などの発表

16:15～ ポスターセッション(学生ホール食堂棟2階)

日ごろの教育実践、研究成果等のポスター発表(A0判1枚程度)

18:00～教育懇談会(学生ホール食堂棟1階)

○8月13日(水)

9:00～ 受付(2号館1階)

9:30～ 分科会(2号館1階講義室2102、2103、2106、2107)

日ごろの教育実践、研究成果等の発表・意見交換4分科会で各8件の発表

途中休憩2回(10:45～10:55, 12:10～13:10) 1件につき発表20分質疑応答5分

14:20～全体会7号館2階721教室) 講評・講演：永井克昇氏(文部科学省  
初等中等教育局視学官)

15:20～閉会行事(7号館2階721教室) 開会挨拶、次年度開催挨拶等

15:30解散

(5) 参加プログラム及び結果

①ライオンングトーク・ポスターセッション(1日目 8月12日)

日頃の教育実践、研究成果などの発表総数19件(資料1参照)中、特に4件の事案について、聴講し、質疑応答・意見交換を行った。

事例1 「情報モラルに関する映像教材と、その活用例」

(千葉県立成田北高等学校 浅見 智峰)

事例2 「コミュニケーション力を育てる情報科の授業」

(聖母披昇天学院中学校高等学校 岡本 弘之)

事例3 「データで見る高校生のコンピュータ活用 ～10年間の変遷」

(東京都立町田光都学校 小原 格)

事例4 「基礎情報学の定着を測る定期考査」

(基礎情報学研究会・高校教員チーム)

事例1については、映像教材(若者の適切なインターネット利用推進啓発DVD「インターネット×リアル」―千葉県インターネット放送局で無料配信・ダウンロード可―)を利用し、情報モラルの重要性を理解させ、考えさせることを目標とした実際の授業実施例(資料2参照)である。自己の授業で取り入れやすいものと判断した。

事例2については、「伝える」ことを意識した上での文章作りやプレゼンのための手法(KJ法・ブレインストーミング)の導入により、意見の質・量、話し合いのスキルの向上を図れることが理解できた(資料3参照)。

事案3については、データ分析の結果、ここ2～3年前より高校生のコンピュータ活用率が急増しているのは、スマホの普及率と強い相関があり、その実情は電子メール(LINE)、検索サイト、音楽・動画配信サイトなどのごく限られたツールしか利用していないことが判明した。事案4については、「情報とメディア」に関する基礎的な内容を正しく理解できたかを判別するために、用語については語群をつけずに出題したり、記述式を出題するなどの工夫がされており、実際の問題も入手することができ、大いに参考になった(導入出題可)。

いずれの事例についても、自己の授業内容に、参考として組み込める良き事例であった。

②分科会(2日目 8月13日)

第1～第4分科会 全32事例(資料4参照)のうち第3分科会「実践と提案」と第4分科会「実践事例」「問題解決」の2つの分科会の8事例について出席し、質疑応答・意見交換を行った。

第3分科会「実践と提案」

事例 1 「横浜サイエンスフロンティア高校の情報教育の実践報告」

(横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校 佐野 和夫)

事例 2 「基礎情報学で情報教育を刷新する」

(京都市立西京高等学校 藤岡 健史)

事例 3 「『情報』を大学受験教科にするために高校側ができること」

(愛知県立瀬戸北総合高等学校 田中 健)

第 4 分科会 「実践事例」 「問題解決」

事例 4 「平成 26 年度情報科導入テスト結果報告」

(横須賀市立横須賀総合高等学校 石井 徳人)

事例 5 「『社会と情報』の授業を変えよう」

(大阪府立りんくう翔南高等学校 千葉 緑)

事例 6 「プレゼンテーションと Web サイト作成の指導例」

(千葉県立八千代東高等学校 谷川 佳隆)

事例 7 「スマートフォン活用法 高校生熟議」

(羽衣学園高等学校 米田 謙三)

事例 8 「モラルジレンマを活用した著作権教育の実践」

(東京都立江北高等学校 稲垣 俊介)

上記 8 事例のうち、事例 1・2、事例 5～8 については、主に「情報モラル」に関する指導について個々の学校の取り組み内容を説明したものである。

「情報モラル」についての授業形態をどう考えるかが、共通のテーマであり、結論として、“基本的な一定のルールを教えることで思考の定着を図り、具体的な事例で良し悪しを判断させることで思考と判断力の定着化を進め、情報社会の中で困窮しない人間に育てることが肝要である。”という統一した見解が得られた。

事例 3 については高校での「情報科」の立場（地位）を高めるために何ができるか、どう考えるべきかを考えさせられる内容であった。

事例 4 については来年度で 10 回目を迎える「情報科導入テスト」の結果報告である（神奈川県高等学校教科研究会情報部会編）。導入テストの実施目的は、「中学校で学んだ知識+これから高校で学ぶこと」についてどの程度知っているか確認することであり、実施形態、問題・解答の分析結果について興味深い内容であった。参加校数としては、34校（平成 26 年度）と少なく、現状では認知度も低い。今後の高校での授業の改善に利用できるものと判断される（資料 5 参照）。

(6) 講評・総括

ホスターセッション・分科会の事例発表については、聴講したどの事例についても発表者の「情報教育」に取り組む情熱さを感じ取られ、各々のテーマに対し、真剣に向き合う姿勢の熱意に強い刺激を受けた。今回の各セッションで学ぶことができた内容（特に「情報モラルの教育」「コミュニケーション能力を高める教育」）については、自己の授業にも取り入れ実践・評価・改善につなげたいと考えている。

(7) その他・特記事項

- 中央教育審議会の動向について（文部科学省初等中等教育局 視学官 永井 克昇氏）
- 新科目「公共」と「情報」の親和性については、現在のところ未知数ではあるが、今後の審議の中で検討され、最も親和性の高い科目に関連付けられる予定である。
  - 学習指導要領全体の改訂の内容として、小中学校にプログラムミング（自動処理手順）が導入される可能性がある（平成26年のしかるべき時期に諮問→平成28年答申か）。